

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network Now

2026 No.605

5 / 1

JART情報
<https://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階
TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



2025年度 第7回チーム医療推進学会 開催される (Web開催)

2026年3月1日(日)午前10時から午後4時30分まで、第7回チーム医療推進学会がオンライン配信とオンデマンド配信で開催されました。

大会は、チーム医療推進協議会代表のJART上田会長のあいさつから始まり、大会長である日本臨床衛生検査技師会の横地常広会長のあいさつの後、開始されました。



上田会長のごあいさつ (オンライン配信)

今回は「認知症予防についてーチーム医療の観点からー」が学会テーマとされ、特別講演に「チーム医療の観点からの認知症予防」と題して、浦上克哉先生(鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座教授)がご講演されました。

講演は、「認知症は予防できる時代」へとシフトしており、多職種が連携するチーム医療によって、MCI段階での早期発見(嗅覚検査の活用)と、生活習慣への介入を切れ目なく行うことが重要であるという内容でした。

続いての基調講演は、認知症と診断されている山中しのぶ先生(日本認知症本人ワーキンググループ代表理事)がご担当されました。

山中先生は、2019年41歳の時に「アルツハイマー型認知症」と診断されました。その後、家族をはじめ周囲の方々の支えもあり、認知症になっても暮らしやすい街づくりを目指した「一般社団法人セカンド・ストーリー」を開設されており、そのご経験をお話いただきました。



山中しのぶ先生の基調講演 (オンライン配信)

シンポジウムでは「チーム医療で行う認知症の診断と支援」をテーマに、各職種(臨床検査技師・診療放射線技師・作業療法士・公認心理師・医療ソーシャルワーカー・視能訓練士)から6人のシンポジストが登壇しました。診療放射線技師のシンポジストとしては、本会から児玉副会長が「診療放射線技師として」と題して発表されました。

その後、9人の一般演題発表がありました。

学会は盛会のうちに終了し、最後に、本学会担当団体である日本臨床衛生検査技師会 専務理事の深澤恵治先生が閉会のあいさつをされ、閉会となりました。

引き続き、来年も多くの診療放射線技師からのご発表とご参加をお願いします。

2025年度 第2回JART-JSRT懇談会 開催される (ハイブリッド開催)

2026年2月20日(金)、本会(JART)と日本放射線技術学会(JSRT)との2025年度第2回定期懇談会が、本会事務局長会議室で開催されました。

本会からは、上田会長をはじめ児玉副会長、江藤副会長、江端業務執行理事、園田理事、堀住事務局長が現地参加、富田副会長、川守田理事がWeb参加し、JSRTからは石田代表理事を含む8人が現地参加、1人がWeb参加しました。

懇談会は、石田代表理事および上田会長のあいさつで幕を開け、続いて両団体から活動報告が行われました。JSRTからは、2025年度の活動総括、今後の学術大会開催予定の共有、ならびに2026年度主要事業計画(案)について説明がありました。

一方JARTからは、2025年4月に厚生労働省へ提出した診療報酬改定に関する要望書の内容を紹介。併せて介護支援専門員(ケアマネジャー)の受験資格に診療放射線技師が追加される見込みであることが報告されました。さらに第41回大会(JCRT福井大会)の開催報告と、第42回・第43回大会の準備状況、国際医用画像総合展(ITEM)への出展について説明がなされました。

加えて、昨年度より進めている原子力災害対応人材育成事業の一環である「甲状腺簡易測定研修」の実施状況を共有し、原子力災害対策への取り組みを紹介しました。また新たな事業として第41回JCRTから開始したワクチン筋肉内注射実技講習会について、多数の受講者を得ている現状と今後の展開が示されました。

共通議題としては、JART-JSRT協力体制推進特別委員会の在り方について意見交換を実施。両団体初の合同大会である第1回日本放射線医療技術学術大会(JCRTM)が成功裏に終了したこと、その後も対話の機会が着実に増えていることから、当初の目的であった協力体制の推進は一定の成果を上げたのではないかとの見解が共有され、活発な議論が交わられました。

またJART側からは、JSRT秋季大会の優れたプログラムをJART会員へ紹介できないかとの提案もなされ、終始前向きな協議が続きました。

次回のJART-JSRT懇談会はJSRTが当番となり、来年度夏ごろに開催予定であることを確認し、閉会となりました。

第47回「医療放射線の安全利用」フォーラム 開催される(Web開催)

2026年2月14日(土)、本会も加盟している医療放射線防護連絡協議会主催の第47回「医療放射線の安全利用」フォーラムが、Webで開催されました。

内容は、医師の働き方改革のタスク・シフト/シェアに関するフォーラムで、シリーズとしては4回目の開催となり、今回は、医療法改正後の医療現場での診療放射線技師の業務拡大に伴う放射線安全について、実装後の問題点を整理し、安全な放射線診療を目指すため『患者の放射線安全に基づいたタスク・シフト/シェアの課題』をテーマに行われました。

初めに講演Iとして、本会の児玉直樹副会長(新潟医療福祉大学)より「タスク・シフト/シェアの推進により見えてきた課題*厚生科研の報告を踏まえて*」について、講演IIとして、本会の菊地克彦理事(東京北医療センター)より

「タスク・シフト/シェアのアンケート結果*日本診療放射線技師会*」について、講演を行いました。

続くパネル討論では、テーマを『患者の放射線安全に基づいたタスク・シフト/シェアの推進』と題し、1.「透視検査やIVRの放射線管理における課題整理—放射線照射を中心に—」山口一郎先生・茂呂田孝一先生(国立保健医療科学院)、2.「透視検査における医師のタスクシフトを考える」～医療従事者が透視検査を不安なく行うために～ 矢野慎輔先生(京都大学医学部附属病院)、3.「CT検査室における患者安全の課題」大野和子先生(京都医療科学大学)がそれぞれ講演されました。

その後、大野和子先生を座長に発表者全員と参加者による総合討論を行い、提言についてまとめました。

JART求人広告掲載について

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(手続きについて→各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

第59回中華民国医事放射学会 (TWSRT) 開催される

2026年3月21日(土)・22日(日)の2日間、台湾・高雄市のThe Kaohsiung Exhibition Centerで、第59回中華民国医事放射学会 (TWSRT) が「Intelligent Imaging and Precision Medicine: A New Paradigm of Advanced Imaging and Generative AI in Practice」をテーマに開催されました。

本学会には台湾、日本をはじめ、アジア各国から多数の(診療)放射線技師が参加し、医療画像および人工知能(AI)に関する最新の知見について活発な議論が交わされました。本会からは江藤副会長がInternational Sessionにおいて「Japan's Current Situation and Challenges」というテーマで基調講演を行い、日本の社会的背景や放射線医療の現状、放射線画像診断分野におけるAI導入の現状と課題、今後の展望について講演を行いました。

台湾では、政府主導によるトップダウン型の推進体制の下、制度整備と技術実装が並行して進められており、社会実装へのスピードが比較的速いようです。本学会を通じて、放射線医療におけるAI技術の導入がアジア各国で進展していることを改めて認識しました。

さて、第33回東アジア放射線技師学術交流大会 (EACRT) が、2026年9月11日(金)から13日(日)まで、山形県で開催される第42回日本診療放射線技師学術大会と併催されます。多くの会員の皆さまの参加をお願い致します。



第4回MRI安全セミナー (医療従事者向け) 開催される (Web開催)

2026年3月16日(月)、医療従事者向けの第4回MRI安全セミナーが、日本磁気共鳴専門技術者認定機構の主催でZoomを使用して開催されました。

この機構では、磁気共鳴専門技術者の認定に加え、「全てのMRI装置が安全に運用されるための知識を幅広く共有すること」を目的に、一般医療職向けの無料セミナーを継続的に開催しています。

今回のセミナーは、医師・看護師・医療技術者・病院事務員・医療安全関係者など、磁気共鳴専門技術者認定以外の一般医療従事者を対象としました。

司会の高橋光幸先生(横浜栄共済病院)、坂井上之先生(つくば国際大学)が担当され、基調講演として日本磁気共鳴医学会の安全性評価委員でもある土井司先生(高井病院)が「MRI検査を安全に実施するために考えること」と題して講演されました。

その後の「MRI安全の質問/解説(よろず相談所)」と題したセッションは、70分を費やして現場の疑問を解消する実践的な内容を中心にした構成で、小見正太郎氏(北里大学病院)、石川応樹氏(越谷誠和病院)、本寺哲一氏(昭和医科大学病院)、秦博文氏(北里大学病院)が解説者として対応されました。

[※司会・演者・解説者のお名前は最新情報を基にしております]

参加申し込み人数は525人で、当日のZoom参加者は294人(医師20人、看護師45人、診療放射線技師185人、その他44人)でした。

第4回 MRI安全セミナー (医療従事者向け)

WEB開催 MRIの安全運用に関する疑問にお答えします
 <開催日時> 2026年3月16日(月) 18:00-19:30
 対象: 医師、看護師、医療技術職員、事務員、医療安全関係者など
 (日本磁気共鳴専門技術者を除く)
 募集: WEB 500名 (先着順)
 お申し込みはQRコードまたは下記URLからお申し込み
<https://forms.gle/MDNwZzgg6SHC3H6Gu6>
 事前に質問を募ります。どんな質問でもどうぞ



司会・進行 秦博文 北里大学病院 高橋光幸 横浜栄共済病院
 1. MRI検査を安全に実施するために考えること (20分)
 土井司 磁気共鳴医学会安全性評価委員
 2. MRI安全の質問/解説(よろず相談所) (70分)
 石川 応樹 越谷誠和病院
 本寺 哲一 昭和医科大学病院
 坂井 上之 つくば国際大学
 小見 正太郎 北里大学病院

日本磁気共鳴専門技術者認定機構 主催 / 日本磁気共鳴医学会 後援
 お問い合わせ MRI安全セミナー事務局 mrjmrts@gmail.com

第78回診療放射線技師国家試験問題の分析結果

診療放射線技師国家試験問題評価委員会は、2026年2月19日(木)に実施された第78回診療放射線技師国家試験(以下、本試験)を評価することを目的として、委員会会議を2026年2月25日(水)に開催しました。本試験が診療放射線技師の基本的知識を適切に判断する内容であるかを検討し、その結果を踏まえて、本会から答申書を厚生労働省医政局医事課試験免許室に提出しました。

なお、厚生労働省のホームページによると、本試験の合格者は受験者数3,506人に対し合格者2,670人で、合格率は76.2%でした。

診療放射線技師国家試験問題評価委員会 構成員(順不同)

○武藤 裕衣、木暮 陽介、鈴木 正広、奥田 圭二、西澤 徹

以下、検討結果を示します。

1. 総評

本試験は、多くの至適問題が見受けられ、全体として妥当性および信頼性の高い構成であったと評価できる。

とりわけ専門科目においては、診療放射線技師の業務に即した臨床場面を想定した設問や、近年の医療現場の高度化を踏まえた実践的内容の出題が増加している。過去問題の知識だけでは対応が難しい設問も見られ、受験者の理解の深さや応用力をより適切に評価しようとする出題傾向がうかがわれた点を、前向きな変化として評価する。

また本試験は、設問の精査・校閲が徹底されており、誤字・脱字や不適切な表現が極めて少ない点については、試験委員の尽力に深く敬意を表する。

加えて、専門知識のみならず一定の読解力を要求する設問においても、設問文および選択肢が十分に校閲されていると認められ、受験者の読解力と理解の深度を適切に測定し得る、質の高い試験であったと判断する。

2. 今後のより良い診療放射線技師国家試験のための提案

- 診療放射線技師を取り巻く状況の変化および現場の実態を踏まえ、診療放射線技師として必要な基本的な事項から出題することに、引き続き十分な留意が必要であると考ええる。
- 医療安全に関する具体的なシミュレーション問題や臨床現場での即応力を問う設問が充実していた点は高く評価できる。今後も、診療放射線技師の業務に即して臨床場面を想定した設問や、近年の医療現場の高度化を踏まえた実践的内容からの出題を充実させることが望ましい。
- 一部の設問において、現在の医療機器では使用されていない技術や機器に関する語句が選択肢として提示されていた。歴史的事項としての意義は認められるものの、国家試験として現行の診療放射線技師の業務において必要とされる知識を適切に評価する観点から、今後は実務で取り扱う技術や装置を中心とした出題への検討をお願いしたい。
- 一部の設問において、放射性医薬品を含む管理区分に関する判断を求める内容が見られたが、現行の出題基準では当該事項の位置付けが必ずしも明確ではない。診療放射線技師として求められる知識範囲との整合性をより明確にする観点から、今後の出題範囲の整理・検討をお願いしたい。
- 一部の設問において、用語の定義と選択肢の概念が受験者にとって理解しづらい可能性が認められた。国家試験として適切な理解を評価する観点から、用語の扱いについて、より明確化を検討いただければ幸いである。
- 現状の診療放射線技師の業務等を診療放射線技師国家試験の問題に反映しやすくするため、構成する試験委員について、診療放射線技師の資格を有した試験委員の増員が必要と考える。

3. その他の事項について

- 試験開始前の説明や電子器機器等の取り扱いについて統一して実施され、公平性・公正性を確保した上で適切に実施されていた。

2026年度 日本診療放射線技師会奨学生の募集について

INFORMATION

- 募集人数：2人
- 応募期間：2026年5月1日(金)から6月19日(金)まで(必着)
- 貸付金の金額：500,000円(1人当たり。貸付額は一括振込み)
- 貸付期間：大学院に在学する期間で、認定された年度から在籍している年度まで
- 申込資格：診療放射線技師としてさらなる知識と技術を習得するため、大学院に入学している者で、他機関の奨学金を受けていない者
- 提出書類：次の書類を本会事務局に提出すること
(1) 奨励金貸付申請書 (2) 履歴書(写真添付) (3) 前年度収入証明書 (4) 入学証明書 (5) 住民票
- 申請手続き：本会ホームページより奨励金貸付申請書をダウンロードし、提出書類一式を送付してください。
- 返済：承認された奨励金は、卒業後1年経過した後、5年以内の返済計画を提出していただきます。

※詳細はホームページのお知らせをご確認ください。

第18回北陸3県診療放射線技師学術研修会 開催報告 (併催：ワクチン筋注行為に関する実技講習会)

公益社団法人富山県診療放射線技師会 副会長 伊藤 貞則 (富山大学附属病院)

2026年3月1日(日)、富山大学杉谷キャンパス 日医工オーディトリウムで、「診療放射線技師の価値創造～技術の標準化と先端医療への参画～」をテーマに、第18回北陸3県診療放射線技師学術研修会を開催しました。本大会は富山県診療放射線技師会が当番県を務め、富山・石川・福井の北陸3県の診療放射線技師合計112人の参加を得て、盛会のうちに終了することができました。

午前中は、北陸3県の会員による一般研究発表(全13演題)をセッション1・2に分けて実施しました。マンモグラフィ精度管理、MRI画像評価、放射線治療技術、被ばく低減への取り組みなど、日常臨床に根差した多彩な発表が行われ、活発な質疑応答が展開されました。また同時時間帯に「ワクチン筋注行為に関する実技講習会」を併催し、61人の参加者が実技指導を受けました。本講習会は、診療放射線技師の業務拡大に対応した新たな技能習得の機会として、参加者の高い関心を集めました。



ワクチン筋注行為に関する実技講習会

午後は3本の講演を実施しました。教育講演では、金沢大学教授・松原孝祐先生より「DRLs 2025の概要と活用について」と題し、最新の診断参考レベルの改定内容と線量管理の実践について詳説いただきました。技術講演では、三菱神戸病院主任・高井夏樹先生より「上肢のX線撮影技術」をテーマに、デジタル技術を最大限に活用した撮影技術の基本と応用について実践的な内容をご講演いただきました。特別講演では、富山大学教授・加藤将先生より「リウマチ診療の概要とリウマチトータルマネジメントセンターの取り組み」と題し、早期診断・早期治療介入の重要性に加え、これらを支える診療放射線技師への期待される役割についてもご講演いただきました。



講演の様子

今回は「リウマチ診療」を基軸として、診療科医師によるリウマチ診療の概要、X線撮影技術の標準化と実践、そして被ばく管理という3つの観点からプログラムを構成しました。各分野で全国的に活躍されている先生方を富山県に招聘できたことは、参加者にとって大変有意義な研鑽の機会となりました。本研修会が北陸3県の診療放射線技師の技術向上と地域医療の質の向上に寄与できたものと確信しております。

ご支援を賜りました関係各位に深く感謝申し上げます。

第18回 北陸3県診療放射線技師学術研修会



テーマ「診療放射線技師の価値創造
～技術の標準化と先端医療への参画～」

日時：2026年3月1日(土) 9:30～16:45

会場：富山大学杉谷キャンパス 日医工オーディトリウム(医薬イノベーションセンター)
〒930-0152 富山県富山市杉谷 2630

参加費：会員 | 無料 非会員 | 1,000円

主催：(公社)富山県診療放射線技師会 (公社)石川県診療放射線技師会 (公社)福井県診療放射線技師会
共催：(公社)日本診療放射線技師会 富山臨床画像セミナー 富士製薬工業株式会社

2025年度 学術教育委員会 放射線治療ワーキンググループ主催 生涯教育セミナー(SGRT実践編)開催報告 (ハイブリッド開催)

放射線治療WG 委員 長澤 陽介 (福島県立医科大学附属病院)

2026年2月22日(日)、自治医科大学附属病院 放射線治療棟(栃木県下野市)で、SGRT (Surface Guided Radiation Therapy) の臨床的有用性と実践的な活用方法の理解を深めることを目的とした生涯教育セミナーが開催されました。テーマは「胸部領域における定量的セットアップ評価」であり、SGRT装置の導入・未導入を問わず実りのある内容となるよう企画されました。現地参加者8人、多数のWeb受講者によるハイブリッド形式での開催となりました。

講義では、佐々木誠先生(京都大学医学部附属病院)がSGRTの基本原理解から国内外ガイドラインにおける位置付け、DIBH (Deep Inspiration Breath-Hold)をはじめとする臨床活用事例を概説されました。すでにSGRTを運用している参加者からも、基礎から体系的に学び直せたいという声が聞かれました。大塚暁胤先生(新潟県立中央病院)からは、腕の挙上時に生じる筋肉・関節の動きを解剖学的に読み解きながら、胸部領域のセットアップで押さえるべきポイントを提示されました。固定の根拠を解剖学の視点からひとつひとつアプローチには説得力があり、参加者の関心を強く集めていました。

実習はAlignRT (VisionRT社製) を用いて行われました。

セットアップの定量的評価や固定具の作製など、手を動かしながら考える時間が確保されていました。特に固定具作製では、参加者同士がアイデアを出し合い、時間を目いっぱい使って試行錯誤を繰り返していました。こうした生のやり取りは現地参加ならではのものであり、改めてハンズオンの意義を実感する場面でありました。Web受講者に対しては、現地実習の機会に対話型のリアルタイムアンケートが実施されました。

事後アンケート(回答24件)を見ると、30~40代が約67%、経験10年以上が約46%であり、日常的にSGRTに携わる層からの参加が目立ちました。講義・実習共に全体として高い満足度が得られていました。ただし、Web参加者からは音声の途切れや映像の分かりにくさが指摘され、配信品質の改善は次回への課題となりました。アーカイブ配信やWeb参加への認定ポイント付与を求める声もあり、参加形態によらず学びの機会を広げる工夫が求められます。

本セミナーが、参加された方々にとって、SGRTの有用性を再認識し、自施設の運用を振り返るきっかけになっていただければ幸いです。最後に、会場をご提供いただいた自治医科大学附属病院の皆さま、ならびに関係各位に深く感謝申し上げます。

レントゲン週間 イベント開催される



本会では、1895年11月8日のW. C. レントゲン博士によるX線発見を記念し、毎年11月2日～11月8日の一週間を『レントゲン週間』と制定しています。

この『レントゲン週間』にちなみ、放射線の専門家として正しい知識を国民に伝えるとともに、私たちの仕事を知っていただくためのイベントとして、本年度も各県(診療)放射線技師会の協力を得て、各地でさまざまなイベントが開催されました。

AKITA

医療放射線画像展 2025

- 日 時：2025年11月15日(土)
- 開催場所：秋田駅東西自由連絡通路(パネル展示)
Newテラス広小路(市民公開講座発信元)
- 参加者：運営16人、会員6人、一般約110人
秋田県診療放射線技師会では、例年、レントゲン週間のイベントとして医療放射線画像展を開催しており

ます。広く県民の皆さまに診療放射線技師を認知していただくため、私たちの業務に関わるポスターパネルを秋田駅自由連絡通路に展示し、併せて市民公開講座を催しております。本年度は「医療放射線画像展 2025～ようこそ、リアルラジエーションハウスへ～」と題し、医療現場と放射線診療について紹介するパネル展示と、診療放射線技師という職業に関心のある中高生や保護者、医療放射線に興味をお持ちの一般の方へ向けた市民公開講座を開催致しました。

パネル展示では、曇りがちでしたが日が差すと温か



医療放射線画像展（パネル展示）

く、例年よりは過ごしやすい天気で、比較的足を止めてご覧いただく方も多い印象でした。そうした方々にこちらからお声掛けさせていただくことで、多くの体験談やご質問などをお話いただき、私たちの説明も真摯に受け止めてくださいました。当日、ご協力いただいた理事や監事の方々から伺った市民の方々とのやり取りの内容としては、「MRIとCTの違いは？」「骨密度に興味があり、どうやったら調べてくれますか？」「放射線治療の副作用とはどんなものがあるのか？」などといった業務に対する質問や、検診を受けた方から「フォローのためにまたCT撮影を行ったが、被ばくはX線（レントゲン）の何倍もあると聞く。そんなに撮影しても大丈夫なのだろうか？」といったご質問、元看護師（NICU）の方から「X線撮影時、プロテクターを着て子供を押さえていたこともあって被ばくについて興味があり、必ずしも甲状腺がんにはならないんですね」といった放射線被ばくに関わるお話、また将来の進路を検討している複数の高校生や保護者の方から「家族や親戚から医療系を進められ、理学療法士（リハ）と診療放射線技師とで悩んでいるが、受験科目や、学校はどういった所が良いか知りたい」「県内や日本において、診療放射線技師の未来の需要はどのように変わっていくのか？」「診療放射線技師のやりがいは何か？」などといった具体的なご質問を頂きました。他にもたくさんのお話やご質問を頂き、さまざまなお問い合わせに対して、担当スタッフが時間の許す限り丁寧に対応致しました。毎年イベントを開催することで、少しずつではありますが興味をお持ちいただき、お声掛けいただく方が増えているように感じております。地道では



ありますが、今後も継続してイベントを開催し、職業認知や放射線に対する誤解や偏見を減らせるよう努めてまいりたいと考えております。

また今年も市民公開講座は多くの方々にご参加いただけるよう、YouTubeを利用したオンライン配信で開催致しました。「診療放射線技師を目指す君へ」というテーマを設け、将来、診療放射線技師を目指す学生やその保護者から、興味をお持ちの一般の方々まで広くご参加いただきました。今年入職した岡部孝佐会員と菊地恵都会員から、学生時代の経験を中心に進路を考えている高校生や保護者の方々に向けてご講演いただき、担当理事として私が放射線診療の基礎と診療放射線技師についてお話ししました。講演後は事前質問にパネリストとのディスカッション形式でお答えしました。残念ながら当日受講された方々からの質問はありませんでしたが、事前の質問では診療放射線技師のやりがいや、なぜ診療放射線技師になろうとしたかという問いが多く寄せられ、診療放射線技師という職業を内面から理解しようとしているのではと感じました。パネリスト間での意見交換も行いましたが、私たちのリアルな声としてお届けできたのではと思っております。開催後のアンケートからもおおむね満足いただけていたようで、今後もご興味をお持ちいただけるような企画を考えてまいりたいと思います。



市民公開講座（オンライン配信）

繰り返しになりますが、地道に行っている活動が徐々に認知されつつあるということが実感できるイベントになったと感じております。今後も診療放射線技師や放射線に対して広く市民の皆さまに理解していただけるよう活動してまいりたいと思います。

今回の医療放射線画像展の開催に際し、講師をお引き受けいただきました岡部会員、菊地会員、パネリストとしてご参加いただきました川又会長、当日、ボランティアでお手伝いいただきました理事、監事の皆さま、イベントスタッフの皆さま、準備にお力添えいただいた理事の皆さまに、この場をお借りして謝辞を申し上げます。

今後もより一層、県民の皆さまに良質な医療を提供できるよう努めてまいります。

（秋田県診療放射線技師会 担当理事 岩根 敦
（秋田労災病院）

INFORMATION

第8回 第42回日本診療放射線技師学術大会

山形への道 Go To YAMAGATA

実行委員 蜂谷 幸大 (山形市立病院済生館)



初秋の山形を遊ぶ

皆さまはご存じでしょうか。

ナショナルジオグラフィック誌の「2026年に行くべき世界の旅行先25選」に、日本から唯一、山形県が選出されました。これをきっかけに、ここ“YAMAGATA”の豊かな自然と伝統文化が、改めて世界の注目を集めています。

今回は、本学会が開催される初秋の山形を存分に楽しめるスポットをご紹介します。

—自然と伝統を遊ぶ—

宝珠山立石寺(山寺)では、果てしなく続くかのような1,015段の石段を一步一步踏みしめながら、松尾芭蕉が詠んだ静寂と向き合う時間を過ごすことができます。「不滅の法灯」のともる根本中堂や断崖絶壁にせり出す五大堂など、歩みを進めるごとに歴史と絶景の織り成す名所が随所に現れます。道中にそびえ立つ「弥陀洞(みだほら)」と呼ばれる長い歳月の雨風に削られた巨大な岩は、その岩肌に阿弥陀如来の姿を見ることができれば幸福が訪れるとされるパワースポットです。

最上川舟下りでは、芭蕉も絶賛したとされる最上峡のダイナミックな景観を間近に感じることができます。船頭の舟唄とユーモア溢れる語りに耳を傾ければ、かつて栄えた舟運の歴史や文化が生き生きとよみがえります。日本三大急流の一つ最上川の中でも、特に難所とされる「碁点」「三ヶ瀬」「隼」を進む三難所舟下りでは、船底を岩にこすりながら通過する船頭の巧みな舵さばきに心奪われること間違いなしです。

羽黒山・月山・湯殿山からなる出羽三山参拝は、現世・前世・来世を巡る生まれ変わりの旅として知られます。9月には高山植物や紅葉が山を彩り、雄大な自然と静けさの中で、日常を離れた神秘的な時間を過ごすことができます。山伏修行体験もあり、白装束に身を包み、今なお受け継がれる信仰文化を肌で感じながら、心身ともにリフレッシュしてみたいいかがでしょうか。

—食を遊ぶ—

爽りの秋を迎える9月。山形の秋の風物詩といえば、やはり芋煮会です。中でも毎年山形市で開催される「日本一の芋煮会フェスティバル」では、直径数メートルにも及ぶ大鍋で作られる芋煮が振る舞われます。今年は学会翌週に開催される予定ですが、実は道の駅やまがた蔵王には手ぶらで芋煮会を体験できる広場もあり、気軽に山形ならではの食文化に触れることができます。

酒蔵・ワイナリー巡りもお勧めです。県内には48もの酒蔵があり、地域ごとの水や米、気候を生かした日本酒造りが行われています。見学が可能な蔵も多く、蔵に一步足を踏み入れれば、ほのかに漂う麹の香りとともに山形の風土が育んだ一滴に出会えます。この時期には秋の訪れを告げる「ひやおろし」が登場し、芳醇な味わいを楽しめます。日本有数のぶどう産地・高畠町にある高畠ワイナリーでは、普段はなかなか目にするのできないワイン造りの工程や醸造設備を見学できます。ワインはもちろんぶどうジュースも試飲でき、お酒の苦手な方やお車で越しの方も、果樹王国ならではの味覚を堪能することができます。

—湯を遊ぶ—

一日の疲れを癒やしてくれる温泉。山形県は全市町村に温泉が湧く全国有数の温泉県であり、さまざまな泉質の湯を楽しむことができます。中でも銀山温泉は、大正ロマンを感じさせる街並みと夕暮れにともるガス灯が織りなすノスタルジックな景観が魅力で、まるでタイムスリップしたかのような非日常を味わえます。はいからさんスタイルに身を包み、温泉街を散策し、「和楽足湯(わらしゆ)」(銀山川沿いの共同足湯)でゆったりとくつろぐひとときもまた格別です。

本学会へのご参加を機に、学びとともに、山形ならではの奥深い魅力を満喫していただければ幸いです。山形さ来てけるな～。



山寺「弥陀洞」



出羽三山「山伏修行体験」



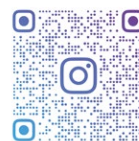
酒造資料館「東光の酒蔵」(米沢市)



JCRT42 YouTubeチャンネル https://www.youtube.com/@JCRT42



山形県放射線技師会 Facebook https://www.facebook.com/profile.php?id=61574051232747



山形県放射線技師会 Instagram https://www.instagram.com/yamahogi/p/



第42回 The 42nd Japan Conference of Radiological Technologists

日本診療放射線技師学術大会

第33回 東アジア学術交流大会

The 33rd East Asia Conference of Radiological Technologists (EACRT)

新たな潮流 紡ぐ灯

人とAIがもたらす放射線技術の未来

JARTスローガン

安全と信頼、診療放射線技師の使命と責任を果たそう



日時

2026
9/11 Fri - 13 Sun

場所

山形ビッグウイング
(現地開催+オンデマンド)

立石寺 (山寺) 不滅の法灯

会長

上田 克彦
公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長

主催 | 公益社団法人 日本診療放射線技師会

共催 | 一般社団法人 山形県放射線技師会

大会長

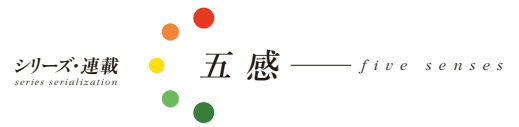
鈴木 幸司
一般社団法人 山形県放射線技師会 会長

後援 | 厚生労働省 (予定) / 公益社団法人 日本放射線技術学会
山形県 / 山形市 (予定)

大会事務局

一般社団法人山形県放射線技師会
〒990-9585 山形県山形市飯田西 2-2-2
山形大学医学部附属病院放射線部内
Tel : 023 (628) 5786 Fax : 023 (628) 5799
E-mail : 42jart@gmail.com

五感



この文章を書いているのは3月中旬ごろである…。

AIやSNSが普及する以前(約20年以上前)だろうか、その頃は、さまざまなことがもう少し緩やかに変化していた。週末ごとに近所や街中を歩いていると、冬から春に移り変わるとき特有の太陽の暖かい日差しや凜とした空気が、「徐々に徐々に」柔らかくなっていくのを感じ、暖かい日は春の空気感や香りを感じていた。

今も都会の駅前の大きなビルの間から差し込む春の光は、冬よりも柔らかく、ぼかぼかした気温は、どこか明るい希望を感じさせる。一方で、スマートフォンを見つめながら歩く人の姿も多く、便利さと同時に、少し寂しさのようなものを感じる。人と人が同じ空間にいても、視線はそれぞれの画面に向いている。その光景は、現代の象徴のようにも思える。

世界的な動向では、人と人との対話の意義が疑われるようなことが起きている。国同士のトップが核軍縮の打ち合わせを

している期間中にも、その国同士の戦争が始まる。以前と比較して、同じ時を刻んでいるのか？と疑いたくなるくらい目のまぐるしい変化である。何を信用していいのか分からない。2010年ごろに提唱されたVUCAの時代が本当に来たことを実感した。

予測のつかない不確実な世の中を、先を見据えて今、何をしなければならぬのか。確実に起きてくる少子化に伴う働き手の減少、そのために必要な人材育成、業務の効率化、ICT、DXの活用など。

おのおのの目標の達成に向けて突き進むことはとても大切なことであるが、目の前の目的達成だけに視点が行き、本質的に今後、われわれがどうあるべきかの「在り方」を忘れないようにしなければならない。

五感を研ぎ澄ましながらも、人の心とつながりを大切にしながら、本質を忘れないように過ごしていきたい。

(文責：川守田 龍)

2026年度診療報酬関連改定(速報版)公開のお知らせ — 放射線分野を中心にポイントを整理 —

INFORMATION

会員の皆さまへ

2026年度診療報酬関連改定について、放射線分野を中心に整理した速報資料を、会員情報システム内のJART Plus(会員限定コンテンツ)で公開しました。

今回の資料では、多くの改定項目の中から診療放射線技師に関連する内容を中心にポイントを整理(22ページから)しています。

業務への影響が想定される改定内容の確認や、今後の対応の参考資料としてご利用ください。

なお、本資料は速報版のため、今後の疑義解釈等により適用範囲や内容が変更・修正される可能性があります。

最終的な取り扱いについては、必ず厚生労働省等の正式通知をご確認ください。

※資料の閲覧はJART会員限定コンテンツ(JART Plus)のアンケート内となります。



5月・6月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

[e-ラーニング(ストリーミング方式)]

- 生涯教育 クリニカルリーダー(e-ラーニング)セミナー 2026年4月6日(月)午前0時から2027年1月27日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から2027年3月3日(水)まで何度でも視聴いただけます。
- 告示研修(基礎研修) 2027年3月31日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。
- 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針オンラインセミナー 2027年3月31日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。

※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。

事務所案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日~1月3日)は執務致しません。